

大小の家

千葉学

+ 千葉研究室

片田友樹 鈴木将記

川口智子 鈴木志麻



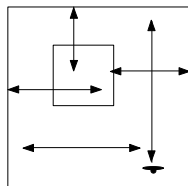
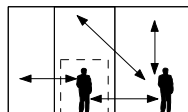
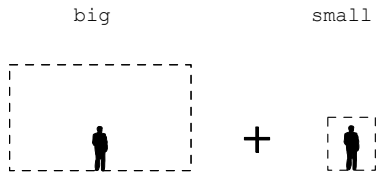
■大きなハコ+小さなハコ による単身者住宅

単身者が自分のための家を持つこと。まずは、そのことならではの豊かさについて考えた。きっとそれは、空間を独り占めできる贅沢さであったり、ひとりきりの時間を過ごす居心地のよさであったりするのだろう。単身者のための住宅は、それらを共にかなえるようなものであってほしい。それはつまり、「大きな空間と小さな空間の両方を手に入れられる住宅」であるということだ。

このプロトタイプでは、そうした大きな空間と小さな空間の両方があることの豊かさと自由を感じられる家を提案する。

物理的な広さや機能の組み合わせよりももっと単純な、大きな空間と小さな空間が共にあって、それが可能にする自由さを手に入れるということ。それが、自分のための豊かな暮らしを求める単身者が家を持つときに重要なことであり、プロトタイプとして多様な展開を考えるときの核となりうることなのではないだろうか。

大きな空間と小さな空間の両方を手に入れる。
そんな、空間に欲張りな主人公たちのための住まい。



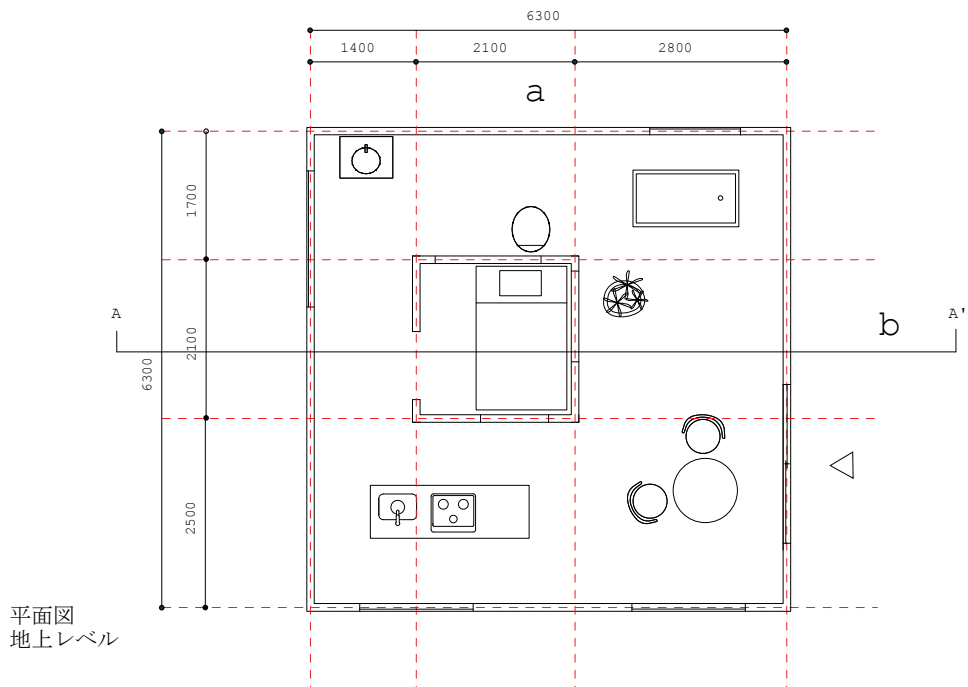
■大小の家のルール

大小二つのハコを用意して、入れ子の空間をつくる。

大きなハコは、天井の高い大らかな空間。
小さなハコは、こじんまりと囲われた空間。
小さなハコは2層になっており、下は天井の低い「巢」のような空間、上は空へ開かれた明るいテラス空間となっている。

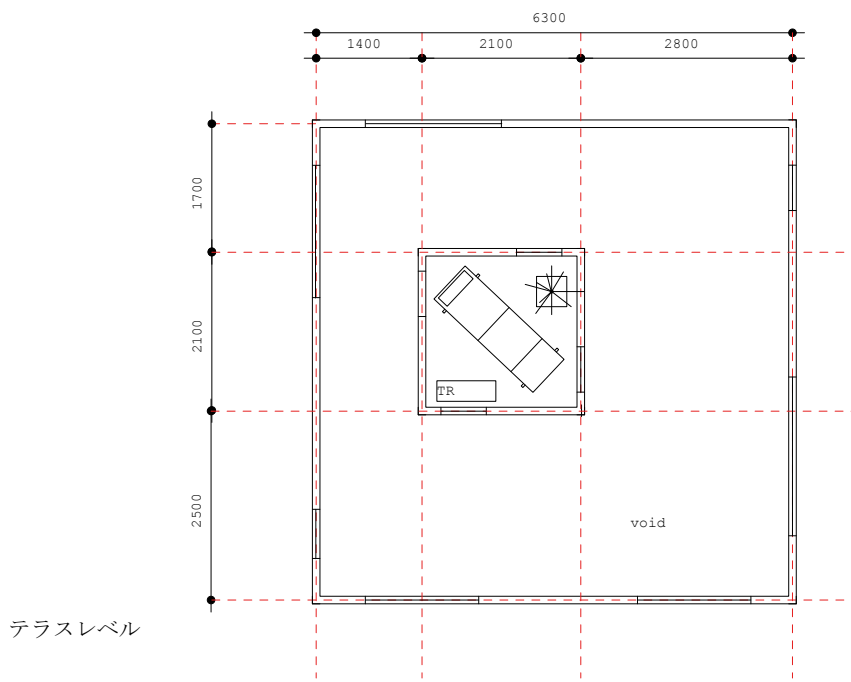
大小の空間が入れ子で同時にあることによって、大小どちらにいてももう一方の空間の存在が感じられ、1つの家の中に様々な距離感が生まれる。大きな空間はより大らかで贅沢な場所に、小さな空間はより親密な場所になり、開放感と安心感がセットになって居心地のよさをつくりだす。

■ 具体例：大小の家のルールを使って作る、最もシンプルな形の住宅。



正方形の大きなハコの中に小さなハコを偏心させて置くと、間に様々な幅を持った場所が生まれる。一番広々とした場所に入ると大きな開口を設け、小さなハコの中にベッドを置くと、開放的な庭に包まれたような住まいが現れる。

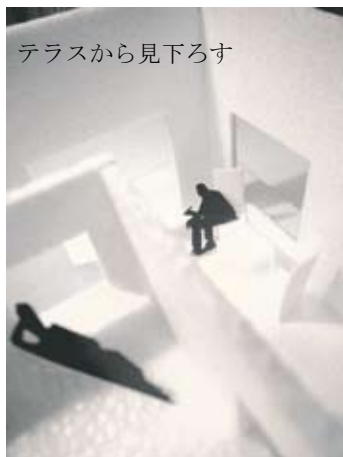




小さなハコの中から見ただけの大きな空間は、部屋と街との間にできた、自分だけの空地のようであるかもしれない。そこにはキッチンやバス、テーブルやソファが風景の一部のように存在している。住まいの機能や場所の性格は主張しすぎることなくゆるやかに混ざり合い、大きな空間と小さな空間の両方の気配の中で、住まい手が空間の使い方を発見していくのだ。大小の家では、例えばそんな住まいをつくることできる。



小ハコから見る

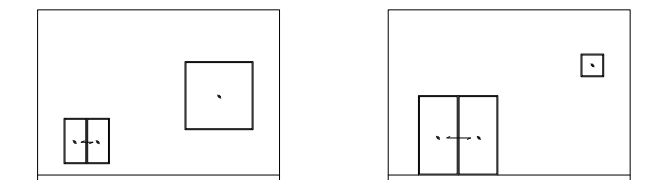


A-A' 断面図



a立面図

b立面図

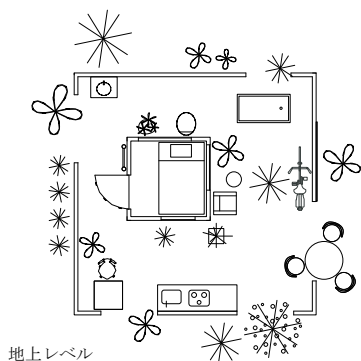


はしごを使ってテラスにのぼると、大きな空間を高い目線から感じることができる。小さなハコに包まれながら、見上げればどこまでも広がる青い空を感じ、見下ろせば自分だけの大きな空間を感じる。その向こうに外の風景を垣間見ながら、天気の良い午後にはここで読書をしたり、昼寝をするのも気持ちがいいだろう。

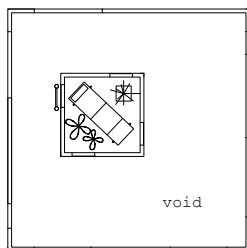
■ 展開

このプロトタイプは、機能や部屋名の配置によるものではない。ハコの形状も様々に考えることができる。ただ、大きい空間と小さい空間が共にあること、そしてそれら2つの関係を住まい手が色づけることによって、家の空間が作られる。だからこの空間の使われ方は、単身者の住まいとしてだけでなく、様々に広がる可能性をもっている。

>>大小のハコの大きさはそのまま、建具を変えた例。



地上レベル

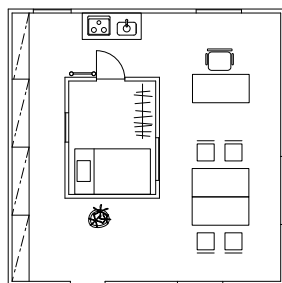


テラスレベル

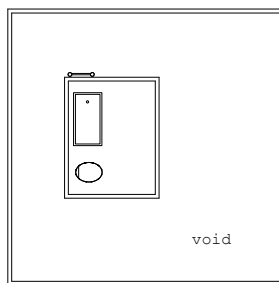
お庭の家

小さなハコに扉をつけ、大きなハコの建具を全開できると、大きな空間はより開放的で外部と一体化した場所になる。植物に囲まれ、風を感じ、外部環境と内部の生活が混ざり合う。

>>大小のハコに変形を加え、二人住まいや仕事場付きにも対応させた例。



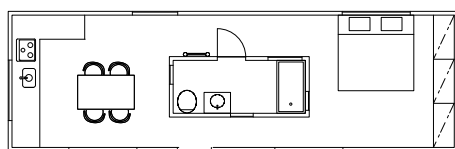
地上レベル



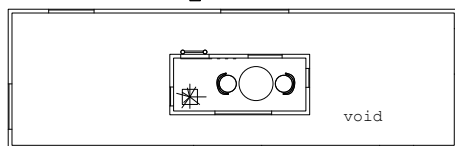
テラスレベル

仕事場付きの家

大小のハコを共に一回り大きくし、大きな空間を仕事のための場所、小さな空間を寝泊りできる場所とした。仕事に疲れたらテラスでお風呂につかってリフレッシュ。



地上レベル



テラスレベル

料理好きな二人の家

大小のハコを細長い敷地に対応させ、料理と食事のための場所を大きくとった。天気の良い日にはテラスで食事を楽しむ。

このプロトタイプのルールによってつくられる大きな空間と小さな空間は、どちらが勝るでもなく、相互的に現れる。この2つ空間の関係を色づけるとは、小さな自分と大きな環境との距離を、住まい手自身がデザインしていくことと言えるかもしれない。そして主人公たちは、大きな空間と小さな空間を自由に行き来しながら気ままに過ごす、そんな生活を手に入れる。